
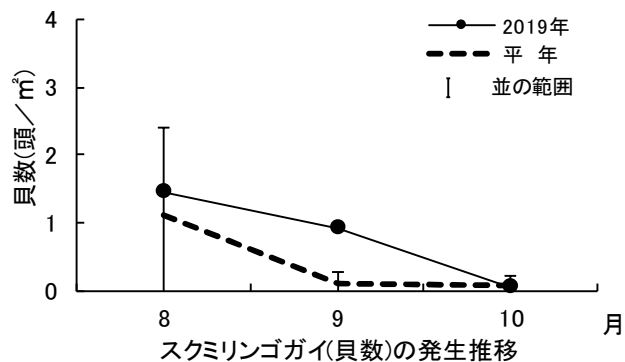


作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	① スクミリングガイ		
予報	11 月の発生量 (平年比)	-	
	10 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	10 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)		

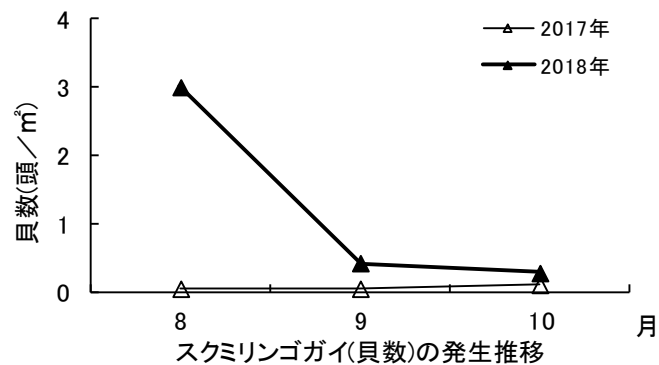
調査結果

今期と平年の推移



・発生ほ場率：20.0% (平年：18.1%)

過去2年間の推移



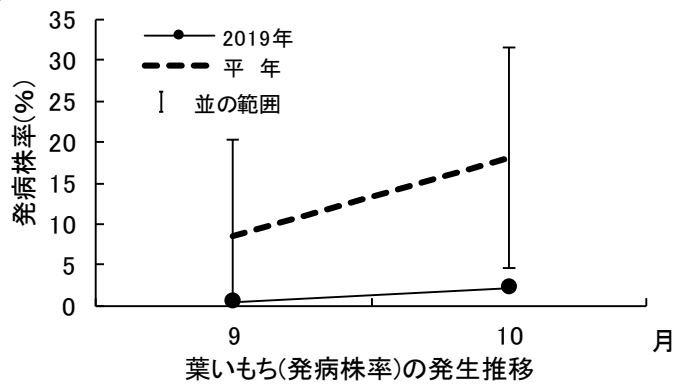
防除のポイント

- ・次作に向けた密度低減を図るため、貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。
- ・畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。

作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	葉いもち病		
予報	11 月の発生量 (平年比)	—	
	10 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	10 月の発生量 (平年比)	やや少	
	その他 (気象要因など)		

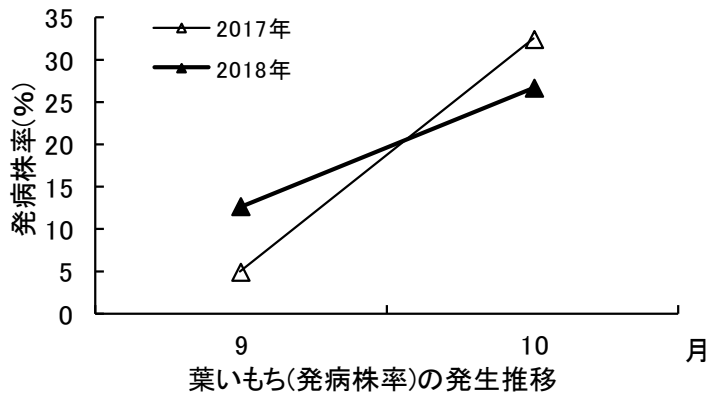
調査結果

今期と平年の推移



・発生ほ場率：31.3% (平年：67.0%)

過去2年間の推移



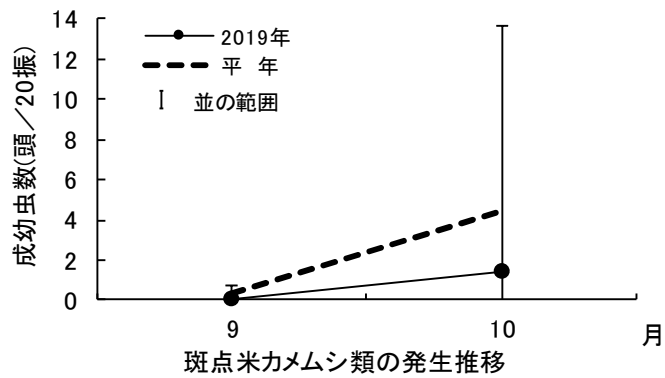
防除のポイント

・被害わらは次作の感染源となるため、ほ場外へ持ち出し処分する。

作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	② 斑点米カメムシ類		 <p>クモヘリカメムシ</p>
予報	11 月の発生量 (平年比)	-	
	10 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	10 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)		

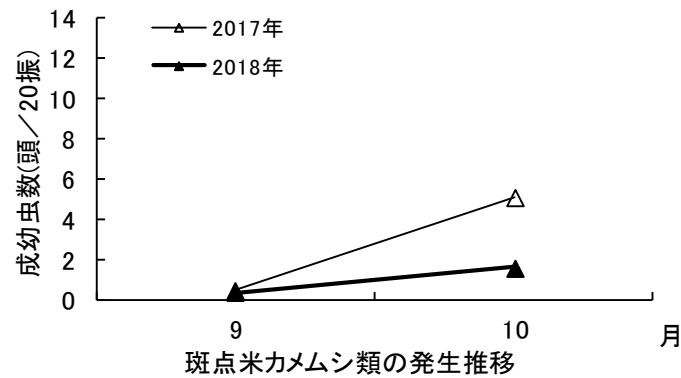
調査結果

今期と平年の推移



・発生ほ場率：50.0%（平年：47.9%）

過去2年間の推移



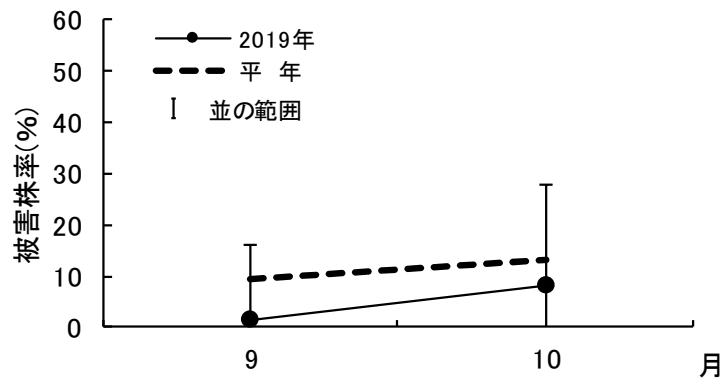
防除のポイント

・次作に向けた密度低減を図るため、畦畔および水田周辺の除草を行う。

作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	③ コブノメイガ		
予報	11 月の発生量 (平年比)	—	
	10 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	10 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)		

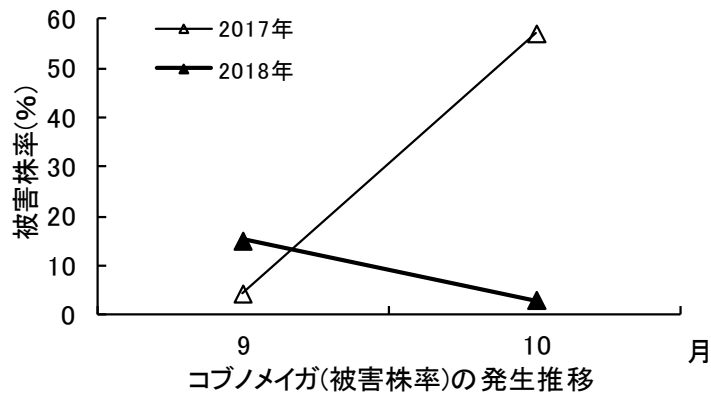
調査結果

今期と平年の推移




・発生ほ場率：56.3% (平年：39.4%)

過去2年間の推移



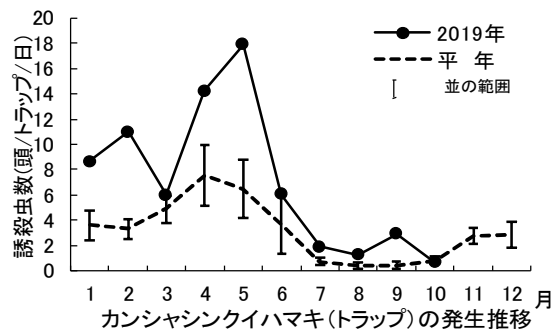
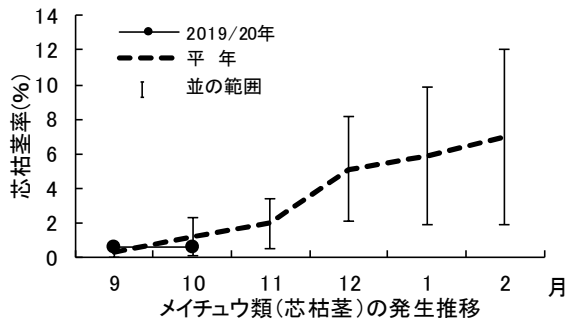
防除のポイント

・老齢幼虫は防除効果が劣るため、粒剤では成虫発生最盛期、粉剤及び液剤ではその約 1 週間後に薬剤防除を行う。

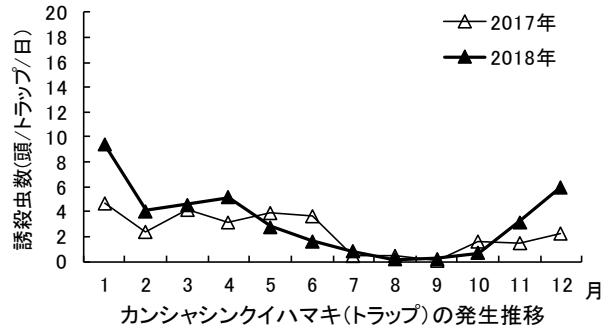
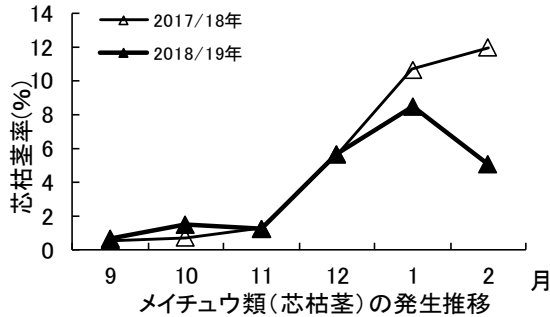
作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
予報	11 月の発生量 (平年比)	並	
	10 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	10 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今年と平年の推移



過去2年間の推移




・ 芯枯れ発生ほ場率：43.8% (平年：68.1%)

・ 茎内で発見したメイチュウ類 (2頭) のうち、1頭 (50%) がカンシャシクイハマキであった。

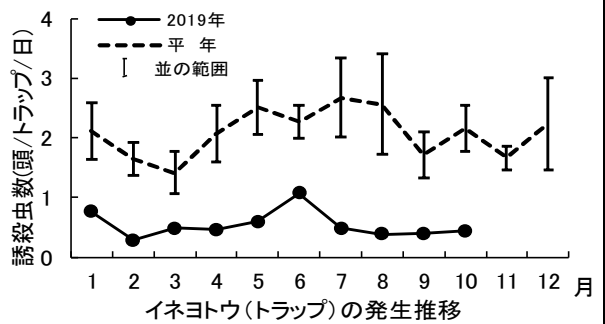
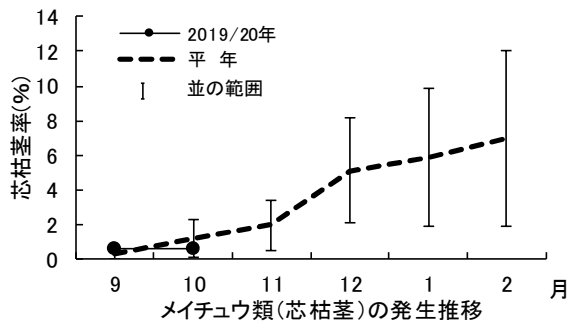
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

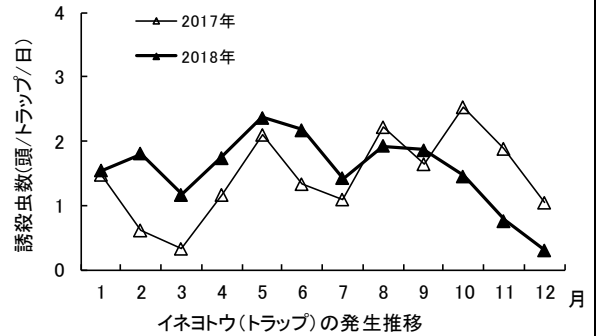
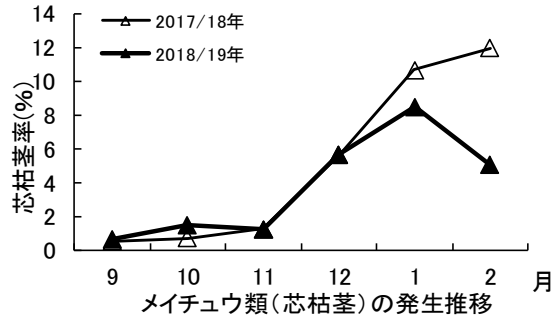
作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	② メイチュウ類(イネヨトウ)		
予報	11 月の発生量 (平年比)	並	
	10 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	10 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移



- ・ 芯枯れ発生ほ場率：43.8% (平年：68.1%)
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類 (2頭) のうち、1頭 (50%) がイネヨトウであった。

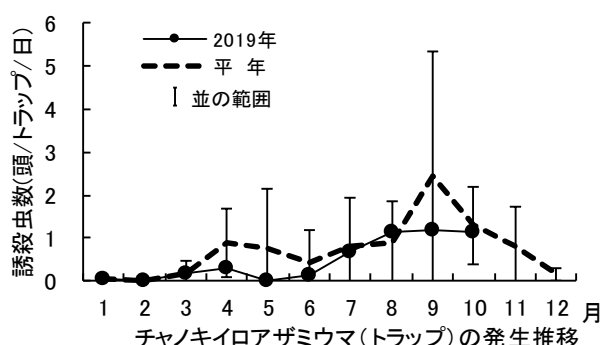
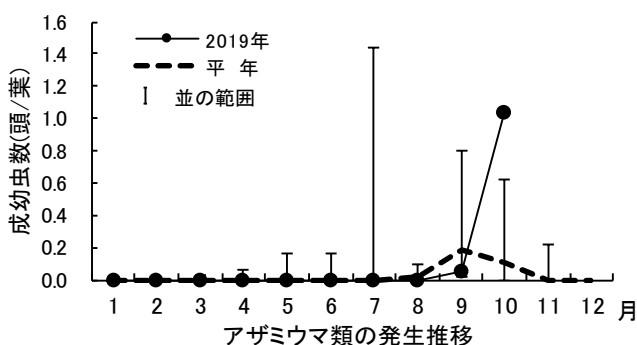
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

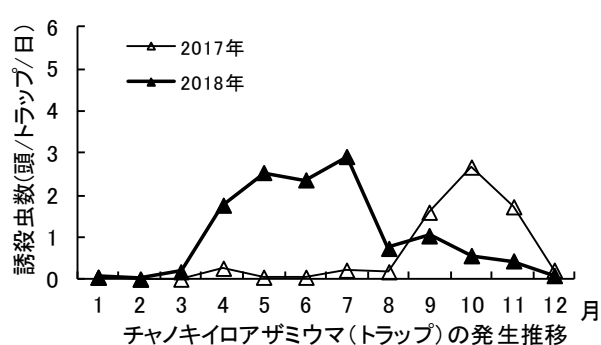
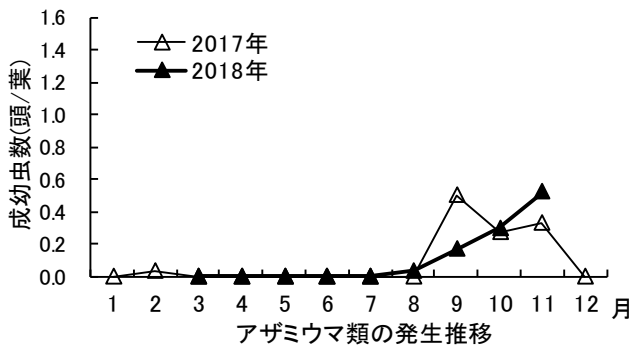
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
予報	11 月の発生量 (平年比)	やや多	
	10 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	10 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移




・発生ほ場率：50.0% (平年値：67.4%)

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

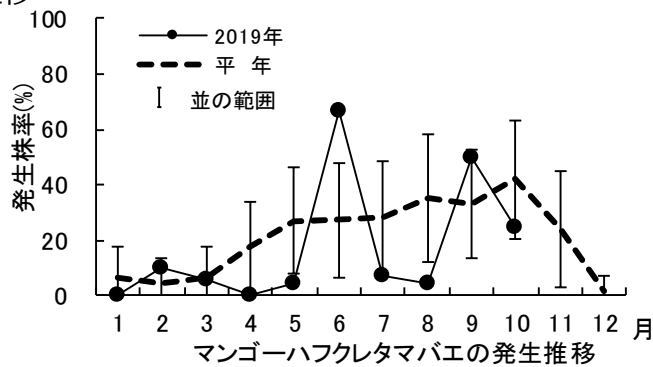


ナガエコミカンソウ

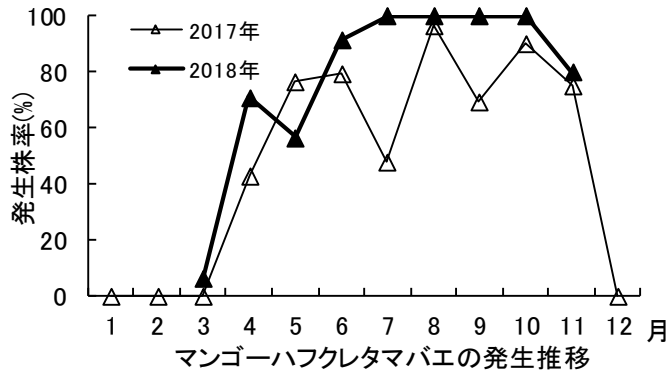
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
予報	11 月の発生量 (平年比)	並	
	10 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	10 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



- ・発生株率 (%) : 25.00 (前年100 平年41.95)
- ・被害新梢率 (%) : 7.08
- ・発生ほ場率 : 25.0% (平年値 : 69.6%)

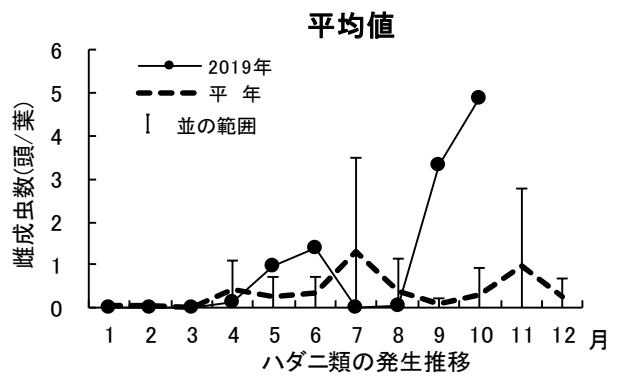
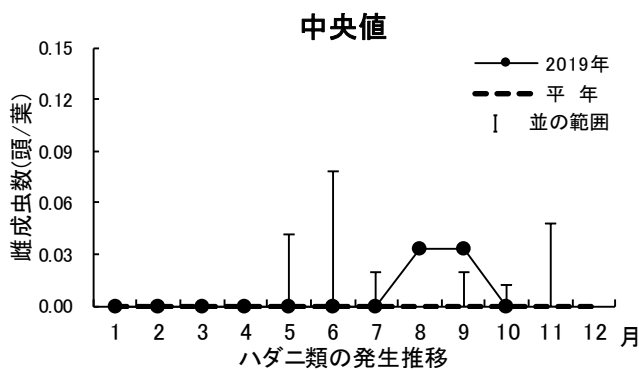
防除のポイント

- ・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

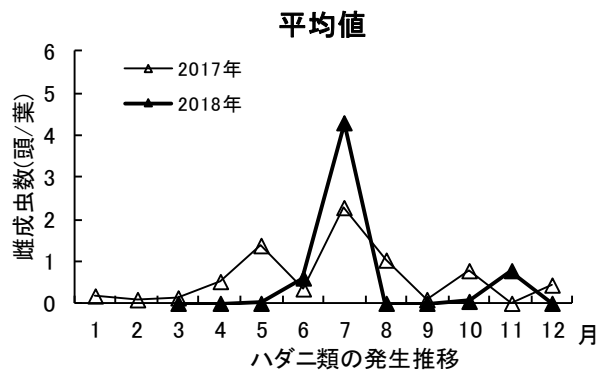
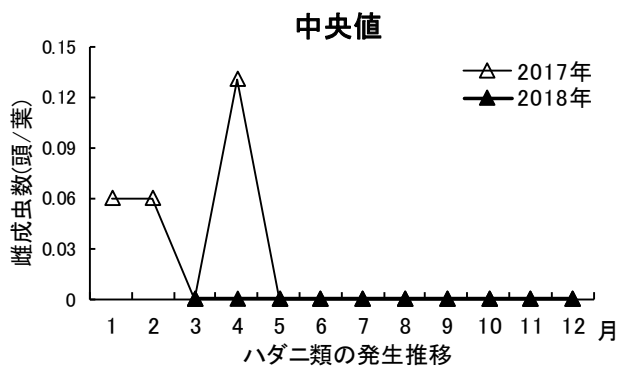
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	③ ハダニ類		 <p>シュレイツメハダニ</p>
予報	11 月の発生量 (平年比)	並	
	10 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	10 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移




- ・一部ほ場で多発生した。
- ・発生ほ場率：60.0% (平年値：31.3%)

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

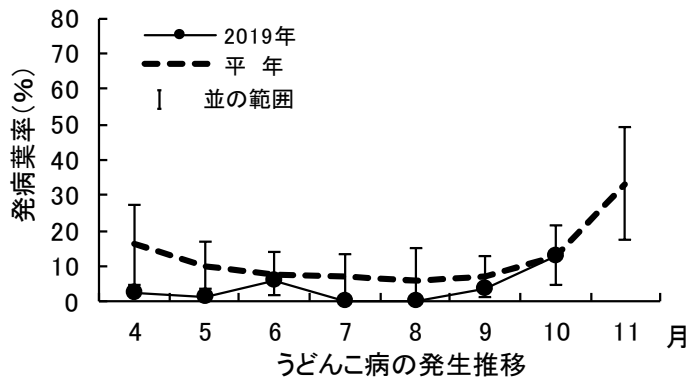


ハダニの寄生による葉のかすれ症

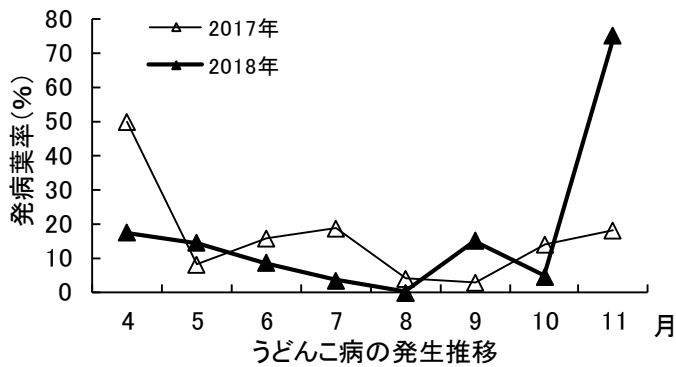
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	① うどんこ病		
予報	11 月の発生量 (平年比)	並	
	10 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	10 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



・発生ほ場率：80.0% (平年値：67.4%)

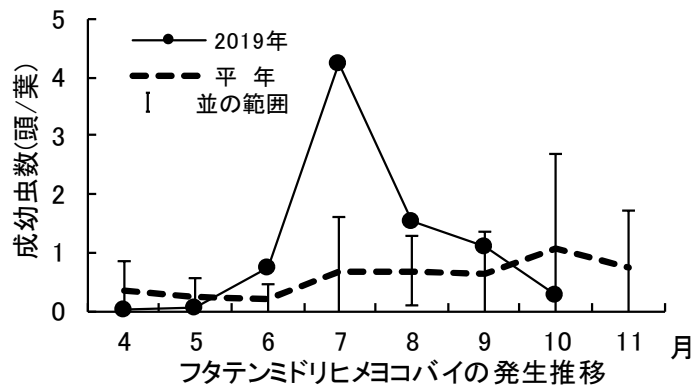
防除のポイント

- ・下位の罹病株や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・窒素過多にならないようにする。
- ・草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。

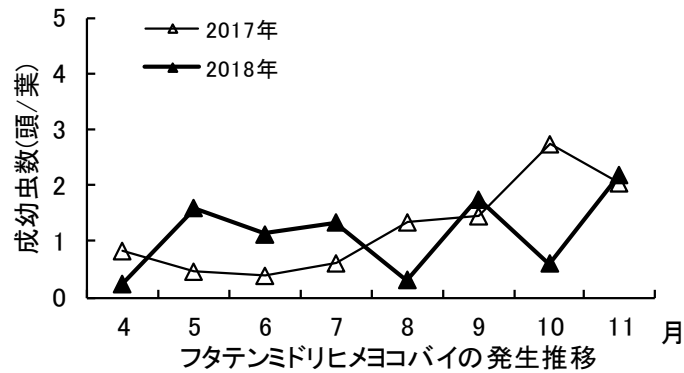
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	② フタテンミドリヒメヨコバイ		
予報	11 月の発生量 (平年比)	並	
	10 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	10 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	今後 1 か月の気温が平年より高い見込み 平年の11月の発生量	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



・発生ほ場率：100.0% (平年値：70.2%)

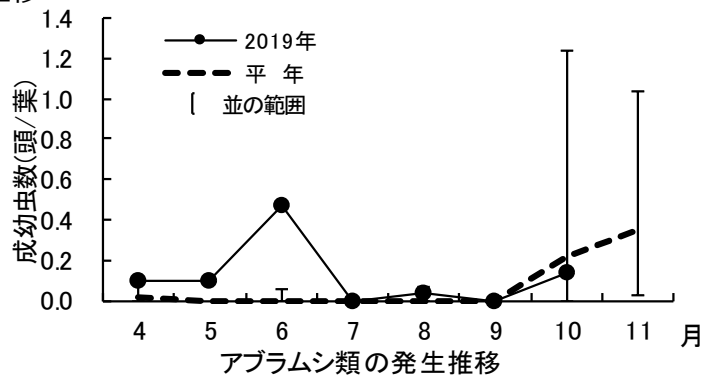
防除のポイント

- ・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

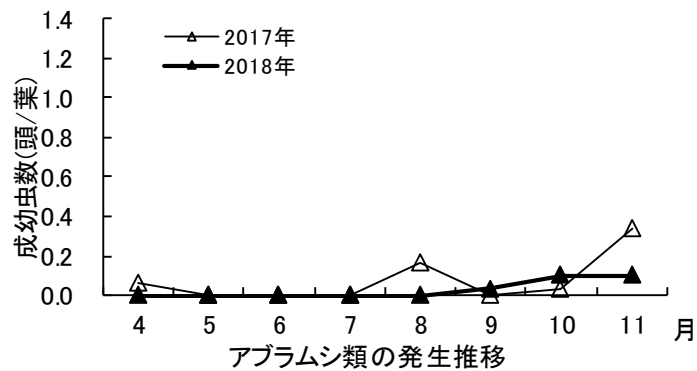
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
予報	11 月の発生量 (平年比)	並	
	10 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	10 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



・発生ほ場率：20.0% (平年値：25.5%)

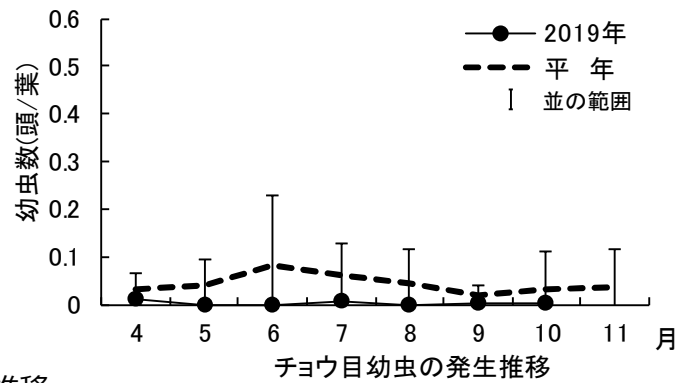
防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

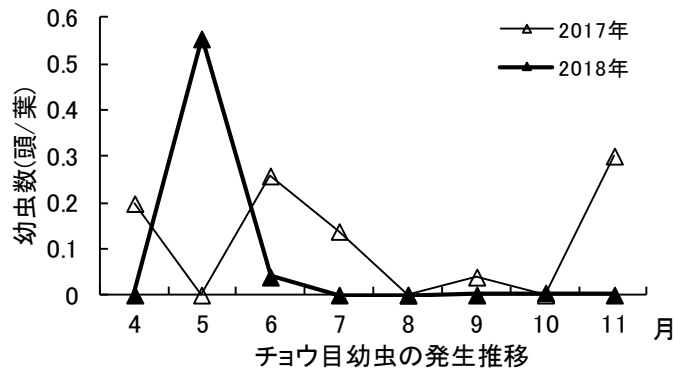
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	チョウ目幼虫(オオタバコガを除く)		 <p>フタトガリコヤガ</p>
予報	11 月の発生量 (平年比)	並	
	10 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	10 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



- ・発生ほ場率：20.0% (平年値：25.5%)
- ・発生種はフタトガリコヤガであった。

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。